

# 佐沼高等学校

校訓 至誠・「献身・窮理・力行」



## 1 基本データ

創立：明治35年  
 課程・学科：全日制課程・普通科  
 生徒数：701名  
 所在地：〒987-0511  
 登米市迫町佐沼末広1番地  
 TEL：0220-22-2022  
 FAX：0220-22-2023

ホームページアドレス：  
<http://sanuma.myswan.ne.jp/>  
 電子メールアドレス：  
 chief@sanuma.myswan.ne.jp  
 主な交通機関：  
 東北本線頼峰駅下車→登米市民バス南方線上り乗車（34分）  
 →「佐沼高校前」下車 徒歩1分

## 2 学校の特徴

### キャッチフレーズ

『夢 “SACO” (咲こう)』

Search Active Challenge  
Opportunity

プラス思考と積極的挑戦を意識した『積極的なチャレンジの機会を求めよ!』をスローガンに、「咲こうとする意志・意欲」の結晶として自分たちの夢の実現のために、佐高で新しい歴史を創っていきこう!

### (1) 学校の概要(沿革, 環境, 施設等)

本校は県の北部、登米市の農業及び商工業の中心地である迫町にあります。近くには白鳥やガンの飛来地として有名な伊豆沼があります。本校は、明治35年旧制宮城県第二中学校の登米分校としてスタートしました。その後独立して大正8年に佐沼中学校と名前を変え、昭和23年には現在の名称である佐沼高等学校と改称するとともに、男女共学の学校となりました。本年度は115周年を迎える伝統のある学校であり、26,000名を超える卒業生が、各所で活躍しています。

### (2) 設置学科等

(過去3年間の学科コース別・前後期選抜別の出願者数・合格者数)

<前期選抜>

		H29	H28	H27
普通科	出願者数	114	178	147
	合格者数	72	72	72

<後期選抜>

		H29	H28	H27
普通科	出願者数	132	196	160
	合格者数	130	168	155

### (3) 教育方針

校訓の「『献身・窮理・力行』の三徳を至誠をもって貫く」の教えと校是の『文武両道』を大切にし、21世紀の国際社会を生き抜くことができる、健全な心身をもった徳性の高い人物を育成することを教育目標としています。

また、伝統として人格の陶冶と学問の探

求を校風としており、常により高い学力の獲得と豊かな個性をもった生徒の育成に努めています。さらに、拠点校として、地域の教育力向上に貢献しています。

これらの目標を実現するため、以下の取組を行っています。

- ・進学重点校学力向上事業
- ・先進的英語教育充実支援事業
- ・Sanuma 公開授業研究会
- ・プラタナス講座(土曜課外)
- ・Sanuma Summer University (大学教授による出前授業)
- ・中高連携(中田中・佐沼中) 相互授業参観・出前授業
- ・職業人インタビュー・学問研究発表会

### (4) 教育課程の特徴

進路目標達成を視野に入れた授業づくりをしています。特に、多くの生徒が希望している国立大学進学へ重点をおいた内容となっています。

1 年次：基礎学力の養成(国語・数学・英語の重点的な指導)

2 年次：類型制(文系と理系)による進路目標達成に向けての早期取組

3 年次：具体的な進路に応じた科目選択授業は45分の7時間で集中力と思考力の向上をはかり、『自律的学習者』の育成を目指しています。

総合的な学習の時間は、『咲こうノート』を活用した、職業研究・学部学科研究・学問研究・進路プランニング・小論文指導など、3年間の系統的な指導を行っています。

新1年生には、学習の仕方、高校生活等についてオリエンテーション合宿を行っています。

### (5) 行事・生徒会活動・部活動

行事は、陸上大会、球技大会、佐高祭の三大行事があり、生徒による主体的な運営がなされています。

また、生徒会活動そのものも、規律ある学校生活の中で活発に行われています。

部活動も盛んであり、平成28年度は陸上競技部が女子走り幅跳びで、ポート部が女子ダブルスカルでインターハイに出場したほか、硬式野球部が選抜高校野球大会21世紀枠県推薦校に選出されるなど、大会成績のみならず「何事にも真摯に取り組む人物の育成」という本校の教育目標に相応しい活躍を見せました。東北高校総体には陸上競技部、女子卓球部、男子水泳部、男女ポート部が出場。県総体では水泳部が男子総合7位、女子卓球部が団体ベスト8と

なったほか、県新人でも男子柔道部、ソフトボール部がベスト8、女子卓球部、女子バレー部、男子バスケットボール部がベスト16に入るなど好成績を収めました。文化部もまた、美術部と箏曲部が2017年度全国高校総合文化祭みやぎ大会への出品を決めたほか、合唱部が県合唱アンサンブルコンテストで金賞に輝くなど、大いに活躍しています。

### (6) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	H28	H27	H26
国立大学	32	43	42
国立短大	2	6	4
私立大学	94	107	96
私立短大	8	12	9
専各学校	54	34	42
就職	21	21	23
その他	22	13	14
卒業生計	233	236	230

### 主な進路先

(平成29年3月卒業・69回生)

( )内は人数 (1)は省略

<国立大学>

東北大学、宮城教育大学、北海道教育大学、弘前大学、岩手大学(7)、秋田大学(2)、山形大学、福島大学(3)、宇都宮大学、千葉大学、新潟大学(4)、金沢大学、宮城大学(4)、秋田県立大学、高崎経済大学(2)、静岡文化芸術大学

<私立大学>

東北福祉大学(13)、東北学院大学(11)、宮城学院女子大学(10)、石巻専修大学(5)、東北工業大学(3)、尚絅学院大学(6)、仙台大学(2)、東北文化学園大学(2)、岩手医科大学薬、岩手保健医療大学、東北芸術工科大学(3)、神奈川大学(3)、獨協大学、文教大学、駒澤大学、東海大学、日本大学(4)、立正大学、神田外語大学、国際医療福祉大学(2)、他

<専修各種学校>

仙台医療センター附属仙台看護助産学校、岩手県立一関高等看護学院、JR東京総合病院高等看護学園、石巻赤十字看護専門学校(4)、獨協医科大学附属看護専門学校、昭和大学附属看護専門学校(2)、他

<就職>

国家(税務)(3)、宮城県職員(2)、宮城県警察、東京消防庁、登米市職員(3)、仙台市職員、自衛官候補生、仙北信用組合、介護老人保健施設なかだ(3)、他

### 3 入試情報

#### (1) 募集定員

普通科 男女240名

#### (2) 前期選抜について

##### イ 学科別の募集割合等

普通科 定員の30%以内(72名以内)

##### ロ 出願できる条件

次の1~3の全ての条件を満たしていることを自己アピールできる者

- 1 自分の将来について明確な目標を持ち、その実現に向けて学習に積極的に取り組む意志を有する者
- 2 学校の授業と教科以外の活動(例えば、生徒会活動、委員会活動、部活動、語学、資格、地域活動、ボランティア、研究、発表など)を両立させた者
- 3 基本的な生活習慣が身に付いており、中学校での学習成績が優秀な者

##### ハ 学力検査 国語、数学、英語 各100点

##### ニ 学校独自検査

個人面接(配点75点) 10分

#### (3) 後期選抜について

##### イ 学科別募集人数

普通科 168名(予定)

##### ロ 面接・実技の有無

なし

##### ハ 傾斜配点の有無

なし

##### ニ 調査書点と学力調査点の比重

4:6

##### ホ 学科の第2志望

該当なし

#### (4) 平成29年度転編入学試験について

(7月以降分)

日程	対象学年	試験科目等
平成29年7月~12月 随時	全学年	国語・数学・英語・面接
平成30年1月~3月 随時	新2・3年	国語・数学・英語・面接

### 4 写真で見る学校生活



Sanuma Summer University



職業人インタビュー発表会(1年生)



佐高祭のにぎわい



吹奏楽部のステージ



陸上大会恒例の「激闘争女」



真剣勝負の球技大会



合唱部(支部総文祭)



ボート部  
(全日本新人選手権大会優勝)

#### 我が校のPRポイント

本校では文武両道の校是のもと、それぞれの目標の実現に向かってひたむきに学習と部活動に励む姿が見られます。

本校の1日は、8時20分開始の小テストから始まります。落ち着いた雰囲気の教室には、静かな中にも熱気が溢れています。放課後までその熱気は続きます。体育館やグラウンドでは部活動の練習に汗を流す生徒が見られ、午後7時半の完全下校時刻まで質の高い活動が展開されています。一方、学習室や図書室でも夕方遅くまで自習に励む生徒が見られます。文化祭や球技大会、陸上大会などの学校行事は、生徒主体で運営され、笑顔と活気に溢れています。

昨年度の国公立大学の進学者は32名。公務員合格者数も国家公務員5名を筆頭に12名と年々増加しています。また、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)や全国高等学校総合文化祭にも、毎年多くの生徒が出場しています。

本校生徒は、90%が大学や短大への進学を、10%が公務員などの就職を希望しています。生徒一人一人の進路希望達成のために、他校では見られない先進的な取組を展開しています。授業を中心に学力を向上させることを第一に考え、部活動との両立も図れるように工夫しています。